

ごあいさつ

看護学研究科では、日本福祉大学が追求する“ふくし”の力(ちから)を存分に活かしながら、複雑で多様な社会環境から発せられる保健・医療・福祉におけるさまざまな健康関連ニーズに十分に答えられる看護学の学問的専門性の確立に不可欠な科学的体系的な研究を積み重ね、研鑽を深めています。そのため、新たな看護学の創造を探求し、社会還元のための学びを深め、専門性を活かす実践力や研究力または教育力を育めるよう、看護学の主要な7専門領域で構成して活動を展開しています。

養成人材像

看護学研究科では、複雑で多様な社会環境から発せられる保健・医療・福祉におけるさまざまな健康にかかわるニーズに対して本学がめざす“ふつうのくらしのしあわせ”(Well-being for All)をふまえ、看護学の専門的探求を通じて、学問的根拠をもって応えることができる研究力や教育力を有する看護人材の育成をめざします。

本研究科が求める人材像

本研究科は、本学の教育理念のもとに、自らが志向する看護領域の基盤となる知識・技術を有しており、看護学の視点から学問的根拠をもって看護課題に応えるための研究力の獲得に意欲を持つてのぞめる人を受け入れます。

具体的には次のような人材です。

- ①看護学の専門領域を深く学修する上で必要となる、基礎的な知識と技術を有している。
- ②看護課題に応えるための探求心が強く、研究力を獲得する意欲を有している。
- ③看護実践の経験を活かし、看護学の体系化と発展に貢献する意欲を有している。

本研究科の特徴

個々に応じた学習プログラムを組み立てることが可能です(長期履修制度の活用、オンライン授業等)。

教員VOICE

女性の生涯の性と生殖のヘルスケアについてより大きな社会的視野から理解し探求する

ウィメンズヘルス看護学は対象となる女性・母子・家族の健やかな一生を支えるために、マ

タニティサイクルにおける健康だけでなく、女性の生涯の性と生殖のヘルスケアについて探求する学問です。女性の高学歴化、就業率の増加、未婚化・晩婚化、少子化など女性の生き方の変化がわが国の未来と密接に直結しています。そのためウィメンズヘルスをより大きな社会的視野から理解し、個々の女性とその家族の健康に及ぼす社会的要因を認識することが重要となります。そのため女性やその家族が生活している社会背景や保健・医療・福祉の動向をふまえた上で、女性自身が健康意識を高め、自らが意思決定し、エンパワーメントできるための看護の基本となる理論について理解を深め、専門職としての課題やそれに役立つ研究課題に取り組んでいます。大学院生の研究活動においては、学問的探求心から修士論文をまとめるまでの一連の過程を個々に応じた支援を重ねています。ウィメンズヘルス領域におけるヘルスケアの新たな役割についていっしょに考えていきましょう。



看護学研究科長
おかだ ゆか
岡田 由香 教授

学位授与の方針

人材育成方針の下、所定の期間在籍し、教育目標達成のための教育課程により学修し、所定の単位を修得するとともに、修士論文審査ならびに最終試験に合格し、以下の要件を満たす者に学位(修士〈看護学〉)を授与します。

- ①看護学研究にかかわる基本的な理論や概念について深く理解し、科学的論理的思考をもって研究を遂行できる力を有している。
- ②看護実践を基盤とした自らの研究の遂行において、適切な倫理的判断に基づき、主体的・継続的に研究課題に取り組む力を有している。
- ③看護学についての高度な専門知識及び技能に関する学修や、研究から得られた成果を、質の高い看護実践に資する研究や教育に、広い視野をもって適用する力を有している。

教員VOICE

「小児看護学」「小児看護学教育」の探求、実践に活かせる研究力の獲得を支援します

小児看護学領域では、さまざまな健康レベルにある子どもとその家族の看護や小児看護学教育に関する課題について、小児看護学の観点から、専門的探求を行っています。小児看護学の基礎的理論を学び、小児看護の実践現場で遭遇するさまざまな子どもの健康上の問題や発達環境にか

かわる問題などについて、既存の文献をもとに理解を深め、実践現場での活用について討議しています。院生個々のニーズに合わせ、自らの研究疑問を研究課題として明確化し、課題に即した研究に繋げるために、さまざまな小児看護学研究のプロセス、方法、結果の導き方などについて具体的に学び、自ら研究遂行する力を獲得できるように支援していきます。臨床現場や教育現場で日頃感じている疑問や関心事について研究してみませんか。少しでも関心のある方はお気軽にご相談ください。受験の準備からサポートします。まずは一歩、踏み出してみませんか。



看護学研究科
しば くによ
柴 邦代 教授